一　般　演　題

1. AIDS 診療における ^{67}Ga シンチグラフィの有用性

五味　達哉　　鈴木　謙三　　鎌田　憲子
唐沢　克之　　（都立駒込病院・放）
藤井　博史　　（川崎市立病院・放）

AIDS に伴う日和見感染症および悪性腫瘍は早期診断，早期治療が重要であり ^{67}Ga シンチグラフィの有用性も少なからず報告されている．

今回われわれは 1995 年 1 月から 1996 年 6 月の間に AIDS 患者に行った 36 例の ^{67}Ga シンチグラフィの有用性を検討した．

結果は特にカリニ肺炎，非定型抗酸菌症，悪性リンパ腫，toxoplasmosis の診断および鑑別診断に有用であった．

以前から AIDS に伴う日和見感染症および悪性腫瘍の診断において ^{67}Ga シンチグラフィは特徴的な集積の分布を示すものがあり，そのパターンを認識することにより診断が可能であるとされている．今回のわれわれの検討においても有用であったが，現在では治療法の進歩があり，典型的な集積の分布を示さないものもあり注意が必要と考えられた．

2. ^{67}Ga シンチグラフィが有用であった結節性多発動脈炎の 2 症例

斎藤アンネ優子　中西　　淳　　尾崎　　裕
京極　伸介　　住　　幸治　　片山　　仁
（順天堂浦安病院・放）

ガリウムシンチグラフィにて，多関節への異常集積により，膠原病が疑われ，のちに結節性多発動脈炎 (PN) と判明した不明熱の 2 症例を経験したので報告した．

症例は 40 歳と 43 歳の男性で，両者共に各種画像所見・血液生化学所見では，膠原病に特異的なものは指摘できなかった．しかし，ガリウムシンチグラフィにて多関節への集積増加が認められたため，膠原病が疑われ，その診断基準から結節性多発動脈炎と診断された．今回の症例では多関節への集積のほかに，両腎への集積，肝への集積の低下などが認められ，膠原病の診断の糸口として有用であった．

3. ^{123}I-MIBG シンチグラフィが肝転移巣の診断に有用と思われた神経芽細胞腫の 1 例

川本　雅美　　小野　　慈
（神奈川県がんセ・放）
相田　典子　　（神奈川県こども医療セ・放）
池上　　匡　　（横浜南共済病院・放）

7 か月男児．マス・スクリーニングで尿中 VMA/HVA 高値を指摘．US で右副腎に 2 cm 大の腫瘤が認められ，神経芽細胞腫の疑いとなる．CT で右副腎腫瘤のほかに，肝右葉後区に低吸収域を認めた．同部は MRI T1-WI では低信号，T2-WI では高信号を示した．また，T2-WI では肝両葉に散在する 1 cm 大の高信号域が認められた．典型的ではないが肝転移が疑われた．^{123}I-MIBG シンチグラフィのプラナー像では肝への生理的集積のため，早・後期像とも異常集積は認められなかった．しかし，SPECT では右副腎腫瘤と肝右葉後区の病変に一致した高集積が認められ，さらに後期像では肝両葉の 1 cm 大の病変に一致すると思われる集積まで確認できた．以上より，右副腎原発の神経芽細胞腫，肝両葉転移と診断され，病期 IVS として無治療で経過観察中である．

本症例では，CT・MRI で診断に苦慮した肝転移巣に対して，^{123}I-MIBG シンチグラフィの SPECT が有用であった．

4. ^{99m}Tc-GSA 肝 dynamic SPECT による全肝および局所肝機能の評価

藤澤　英文　　篠塚　　明　　武中　泰樹
菱田　豊彦　　（昭和大・放）

^{99m}Tc-GSA による dynamic SPECT を各種肝疾患患者 18 名 18 検査を対象にして行い，その有用性を検討した．1 回転 90 秒にて 40 回転 (60 分間) の連続収集を行った．収集マトリックスは 64×64 である．

Presented by Medical*Online